

陸平通信

OKADAIRA 2011 年 10 月 1 日発行
編集・発行 / 茨城県稲敷郡美浦村土浦 2359
美浦村文化財センター（陸平研究所）
☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471
Eメール :bunkazai@vill.miho.lg.jp

第Ⅱ期 68号



出店部門

縄文体験
(土笛づくり、どんぐりクッキーづくり
鮎焼き・火おこし)

民俗体験
(歌詠み・糸紡ぎ・昔遊び・もちつきなど)
各種模擬店など

ステージ部門

縄文太鼓・カーテンシアター・
おはやし・安中音頭・陸平音頭
かかしコンテスト・お楽しみ抽選会など
落語 好文亭 梅朝
(安中小学校・佐藤弘道先生)

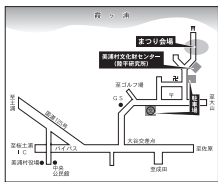


10月23日(日)

午前10時～午後2時

《雨天中止・小雨決行》

会場：陸平貝塚公園



—お願い—

まつり会場への車の乗り入れは
できません。公園駐車場もしくは、
安中小学校臨時駐車場をご利用
ください。また駐車台数が限られ
ますので、お乗り合わせの上お越
しくださいますようお願い申し
上げます。

(駐車場からまつり会場まで送迎あり)

主 催：陸平縄文ムラまつり実行委員会
問合せ：美浦村文化財センター
(☎ 029-886-0291)



第14回

陸平縄文ムラまつり

「かかしコンテスト」

参加者募集

まつり会場へ「かかし」を展示し、
コンテストを行います。皆さんの作品
をお待ちしております。

入賞された個人・団体のかたには豪
華景品を、参加された皆さん全員に参
加賞を贈ります！

◆参加方法

参加いただける方は文化財センター
へご連絡ください。



土器のランプづくり

講座参加者募集



縄文土器のランプをつくってみませんか？
作った作品は、12月開催予定の「クリスマス
ピアノコンサート」会場で明かりを灯します。

日 時：11月27日(日)

午前10時から午後3時

参加費：500円

申込方法：文化財センターへ電話にて連絡

申込期間：10月12日～(月曜・祝日は休館)

定 員：20名

クリスマスピアノコンサート

★一灯りと音楽のタベ★



★講座等で作った、陶器の明かりを灯し、
ピアノコンサートを行います。

★出演：ピアニスト 山本光

★日にち：12月17日(日)

★開 場：16時

★開 演：16時30分

戦争体験を後世に・・・

終戦記念日を前にした七月二十四日（日）、文化財センターで講演会「語り継ぐ予科練」を開催し、戸張礼記氏（元第14期甲種飛行予科練習生、阿見町予科練平和記念館歴史調査委員）に予科練での体験を語っていただきました。また、講演会にあわせてセンター内では大山地区に残る鹿島海軍航空隊跡をパネルで紹介しました。

戸張氏は阿見町出身で昭和十九年、十五歳で予科練へ入隊しました。現在とは異なる当時の世情や人々の意識などの話から、予科練へ憧れを抱く若者が多くいた様子を知ることができました。特に予科練でのさまざまな厳しい訓練については、体験した方であれば分からない大変貴重なお話を聞くことができました。最後に、特別攻撃隊（特攻）や訓練中などで亡くなった多くの予科練出身の若者の中には、美浦村出身の方もいたことも紹介して下さいました。

講演は時代を反映する当時の歌（ハーモニカの生演奏）を随所に入れながら、映像や実演を交えた分かりやすい内容でした。戸張氏は近年特に戦争体験を後世に伝えていかなければと強い思いを持って、資料収集や調査などを精力的に行い、ご活躍されています。当日は関心を寄せる多くの方が講演を聞きに来て下さいました。

美浦村に残る戦争施設としてパネル紹介した鹿島海軍航空隊は、現在建物の一部が残されていますが、今後詳しくご紹介する予定です。

予科練とは？

旧海軍がより若いうちから熟練の搭乗員を育てようとおこなった航空機搭乗員の養成制度。海軍飛行予科練習生の略。14歳半～17歳までの若者が入隊。



▲当時はもっと大きな棒だったと海軍精神注入棒を手に厳しい訓練の様子を語る戸張礼記氏。門脇教育長との実演場面もありました。奥はハーモニカの坪田穰氏。



▲会場の様子。暑い中、多くの方が講演を聴きに訪れました。



▲鹿島海軍航空隊施設①—旧司令本館—
昭和初期の建物としてはかなり高い技術が用いられていました。戦後、病院として使用されました。



▲鹿島海軍航空隊施設②—木造兵舎—
旧司令官本館裏にあり、当時、海軍士官が寝泊まりしていました。平成10年（1998）老朽化のため解体撤去されました。

美浦村の地名4

信太地区（その1）

今回は大谷地区の谷津入りからトレセン方向に向かう道路の左側をみていきました。今回は道路の右側（西）をみていきましょう。

JRバスの停留所「大谷学校前」付近は、土をとって広い範囲が道路と同じ高さまで低くなっています。数年前までは台地の先端部分が停留所までせまり、台地の上には大作台遺跡がありました。遺跡の名称は小字を用いていますので、大作台という小字があったわけですが、台地の先端付近には大日後、大日後久保、大日後台、大日下など大日とつく名称が集中し、そこには大日如来の板碑（寛永五年・一六二八）も祀られていました。また大作台という小字のまわりにも大作、大作辺太、大作久保、北側に大作北の方など大作とつく小字がみられます。

さらにトレセン方向に向かって進んで行く道路の右側（西）の台地には北坪、給分、新海道、大御堂前、橋ノ下、といった小字があります。

大谷小学校や大谷時計台児童館側に面した台地側をみてみると鳴神、鳴神前、西山東添、西山北ノ添、薬師前、薬師下、十佛などの小字がみられます。台地のまわりの田んぼになっている低い部分には、弁天、木戸内、鳴神下、谷原田、小井戸、久保、下田、矢本、坂ノ下、松葉様、貉崎、追堀などの小字がありましたが、現在は給分下、給分上、信太などにまとめられています。

トレセンのあるエリアは美駒に名称が統一されましたが、ここにはかつては、屋敷台、戌落し、長久保、姫宮、姫宮入、権月

山京、一色台、大久保、原大久保、道葉様、大葉様といった小字がありました。

前回と併せて信太地区の地名をみてみると、大日や大御堂という名称からはかつてどのように通称とされた寺院があったことが推測され、薬師・鳴神・天神・香取・稲荷・地藏など小寺社を示すような名称も多くみられます。また、庄司山・給分・主殿窪・猿楽・佃・手作・大田・寺田・神田・京伝（経田）、一色など荘園に関する地名、木戸のつく名称や城ノ内など城館を示す地名もみられました。信太地区は、その地域を特徴づける地名も多く、さらに地形を示すような台・久保（窪）・山、方角を示す東・西・南・北、位置を示す前・後・上・下なども加えられて他の地区に比べて字名の数が多いようです。

場所が推測できるような地名もあれば、何故その名称がつけられたのか、現在では由来が分かりにくい地名も多くあります。

地名について聞き伝えられていることがありましたら、どうぞ文化財センターまでご連絡をお願いします。

茨城県『茨城県史 中世編』昭和六十一年引用参考文献



陸平貝塚を皆で調べよう！

平成二十二年年度確認調査の整理・研究進む

昨年度、現地調査を実施した、陸平貝塚の確認調査について、地元住民の方々参加のもと、整理・研究が進められています。

現地調査終了後の昨秋から、土器の破片一つ一つに出土した位置等を書き込む注記作業や、割れた土器の接合作業、それに貝の種類分けや大きさの計測、小さな魚の骨の抽出など、地道で気の遠くなるような作業が続いています。中でも貝が食べられた後、そのまま纏めて捨てられたのか、

そうでないのかを調べるために行った二枚貝の貝合わせには多くの時間がかかりました。

現在、これらのデータをまとめている段階ですが、ウナギの骨が大量にみつかったことが注目されます。今後はウナギを何処で捕っていたかを探るために、科学的な分析も予定しています。

詳細な結果が明らかになり次第、速報していく予定ですので、ご期待ください。





絵てがみ。暑さの中、心が和む絵を描いてくれました。



ひょうたんマラカスづくり。アクリル絵の具で大胆にワニを描いていた男子。子ども達の絵は大人達を楽しませてくれました。

縄文土器づくり。3時間かけて完成。すごい集中力！



どんぐりを石皿の上で粉にして、クッキーづくり。「どんぐりって美味しいんだね!!」



藍染体験。お母さんとの協同作業でストールを藍色に染めたよ。



さきおり体験。手と足を上手に使って、キレイなランチョンマットが完成！



親子でそば打ち。丸めたりのばしたり、切ったり。おそば美味しかったね。

おかだいで体験講座

7月から8月にかけて、文化財センターにおいて「夏休み体験講座」を開催いたしました。村内外から120名の方々におこしいただき、とても賑わいました。親子で楽しむ姿がたくさん見られました。

今後も、皆さんが楽しめる講座を開催する予定です。是非皆さん、文化財センターへお越しください。



陸平探検。陸平貝塚で貝の観察をした後、センターでとても細かい魚骨を探しました。

資料収集にご協力を

文化財センターでは、村の記録として古文書や美浦村の昔の写真などさまざまな資料を収集しています。写真の場合は昭和までのものが対象で、いつ頃の場所かなどの情報かわかるもの。ご寄贈いただける場合はご連絡を・・・お気軽にお問い合わせください。

古代米稲刈り



陸平の田んぼに稲穂が実る季節となりました。9月7日、安中小学校5年生と陸平をヨイシヨする会が稲刈りを行いました。鎌で刈り取った稲を藁でギュッと束ねる作業はなかなか難しいようでしたが、すぐに覚えて作業していた子ども達。「全然重くないよ」と、両手に稲を抱えトラックまで運ぶ男の子が頼もしく思えました。機械を使わない、稲刈りの大変さを実感したことでしょう。稲刈り後には、イナゴ捕りを楽しみました。